

## 慢性疾患患児とその家族の心理的問題

吾郷晋浩、山下 淳、Ratnin D.Dewaraja

**要約：**小児慢性疾患の診療にあたっては、それぞれの患児の疾患の重症度、進行度、治療期間などによって患児に生ずる心理的な問題だけではなく、それぞれの患児の両親、とくに母親に生ずる心理的な問題も考慮しなければならない。なぜなら、それらが患児の疾患の経過に無視できない影響を与え、患児のQOLを低下させるからである。今回はそのような疾患の経過に影響を与える心理的な問題として、どのような問題が考えられるかをこれまでの臨床経験に文献調査の結果を加えて検討した。

**見出し語：**小児慢性疾患、心理的問題、両親（母親）、同胞、

はじめに

慢性疾患が患児に引き起こす心理的な問題は、その疾患の種類や重症度、進行度などによって差が生じる問題とそのような疾患の性状によらない発症後の療養期間が長期化することによって生ずる問題とに分けられる。もちろん、それらを受けとめる患児の心理的な成熟度、ゆとりの有無などによって、それらの与える影響には差が生ずることは言うまでもない。しかし、いずれにしても、それらは患児の疾患の経過に何らかの影響を及ぼし、その結果がさらに心理的な影響をもたらすという悪循環を形成することが少なくない。

また、患児が長期療養を余儀なくされるとき、

その患児の両親とくに母親にもさまざまな心理的な問題が生じてくる場合が多い。そして、それらはしばしば患児に心理的影響を与え、それがさらに患児の疾患の経過に影響を与えている場合が少なくない。したがって、小児が慢性疾患に罹患したとき両親とくに母親にどのような心理的問題が生じているかを明らかにし、それに対してできるだけ早期に対処することが必要になる。

なお、これまでわが国においては、ある家族が慢性疾患患児を抱えたとき、その家族の構成員である他の同胞がどのような心理的問題を引き起こしているかについてはほとんど注目されていない。

しかし、実際にはさまざまな問題が引き起こされ

ている場合が少なくない。

このように、慢性疾患患児の診療にあたっては、その疾患が患児に引き起こす心理的問題だけではなく、その家族の構成員全員に対する心理・社会面への配慮が必要になる。

## 方法

最近10年間に欧文で発表された論文を Medline により "Children" "Chronic illness" "Psychological" の Key-word で検索した127論文のうち、重要と思われる内容の論文について、その内容を  
1)慢性疾患が患児に及ぼす心理的影響、2)慢性疾患患児がその家族、とくに両親に及ぼす影響、3)慢性疾患患児が家族、とくに他の同胞に及ぼす影響などの観点から検討を行った。

なお、これらの論文に含まれる対象疾患は神経筋疾患、心疾患、気管支喘息、若年性関節リウマチ、糖尿病、腎疾患などである。

## 結果

1)慢性疾患が患児に及ぼす心理的影響について  
慢性疾患患児には、健常見に比べて2~3倍心理的問題を生じやすいとする報告が多い。

小児期・思春期の慢性疾患患児にみられる心理的問題は同時期にみられる精神医学的な問題の約1割に達するとの報告がある。

慢性疾患患児にみられる心理的問題としては、同年齢の健常見と同じように行動できないことにより劣等感をもちやすく、自信を失って内向的になりやすい。入院期間などが長くなると、社会性を身につける機会を失い、自我が未熟なままにとどまり、たとえ少し経過がよくなって学校生活や

社会生活に戻れるようになったとしても自信がもてず、不安になり回避的な行動をとりやすい。とくに学童期に学習の遅れが明らかになった患児にみられやすい。

また予後のよくない疾患に罹患している患児の場合には、悲観、絶望し、生きる意欲を失ってしまう時期もみられる。

これらの傾向は、その慢性疾患の重症度や、日常生活の制約度、患児の性格傾向、療養期間とその間の医療スタッフ、家族や教師、友人などの心理的支えの有無などによって異なってくるが、療養期間が長期になれば、何らかの心理的問題が加わってくることが多いので、小児慢性疾患を診療するにあたって小児科医は常に心身両面より診ていく心構えが必要と指摘する論文も多い。

2)慢性疾患患児が家族とくに両親に及ぼす心理的影響

慢性疾患患児がその家族、とくに両親に与える心理的影響は、まず、その慢性疾患の重症度、進行度、予後の良否(致死性的か否か)などによって異なってくる。とくに発症した年齢が低く、重症、進行性で致死的な疾患ほど両親の苦悩は大きい。とくに母親が孤独感を体験している割合が高いとの報告がある。もちろん、そのきびしい現実の受け止め方、その乗り越え方はその両親の年齢、人間的な成熟度、親密度などによって差がみられる。

慢性疾患患児をかかえることにより、両親の離婚率が健常見のそれよりも高まるとの報告もみられるが、それを否定する報告の方が多く、慢性疾患患児の世話を通して、むしろ両親が親密になる場合もあるとの報告がある。

致死的慢性疾患で、看病のいかなく患児が死亡したときの両親とくに母親の心理反応には、治療を要する場合があるので、両親の行動に対する注意深い観察が必要である。

なお、小児慢性疾患で、予想された治療経過をとらない患児の中に、両親とくに母親からの虐待によって十分な治療が受けられないことによる場合があるので、そのことも念頭においておく必要がある。

### 3) 慢性疾患患児が家族、とくに他の同胞に及ぼす影響について

慢性疾患患児をもつ健康な同胞は、健常児の健康な同胞に比べて、2～4倍心理的問題をひき起こす可能性があるとの報告がある。

慢性疾患患児がいる家庭において健康な同胞が受ける影響は、その健康な同胞の年齢や精神的な発達段階などによって異なってくる。健康な同胞の年齢が低く、両親とくに母親の愛情を必要とする時期であればあるほど、彼を慢性疾患について理解できなければできないほど、両親とくに母親が慢性疾患患児に手をかけることが、その健康な同胞に要求不満に基づく怒りや、かまってもらえない淋しきなどをひき起こし、それからくる心理的問題をひき起こしやすくなることになる。

逆に、健康な同胞と両親のコミュニケーションが十分にとれ、その同胞が慢性疾患について理解でき、患児に両親とくに母親の看護が必要であることを理解できる年齢になっている場合には、その患児の世話をさせることによって、健康な同胞の成長を促すことにもなる。

とくにこのような問題は、患児の長期入院により母親が付添いっぱなしになったり、重症の慢性

疾患患児の在宅ケアをする場合に生じやすいのでこの点への配慮が必要である。

### 4) 慢性疾患患児ならびにその家族の心理的な問題発生の予防

慢性疾患患児とその家族には、前述したような問題が生じやすいことを考慮に入れて、その診療にあたる小児科医、看護婦をはじめとする養育スタッフ、教師、家族などが早期にこれらの問題点に気づいて、適切に対処していくことが大切である。

### 考察

小児慢性疾患にはさまざまな疾患が含まれるが、その心理社会的側面を考えると、まず、それらを幼小時期に発症して長い治療経過を辿りながら成人期までに軽快・治癒してしまうことが多い疾患（Ⅰ群 気管支喘息など）、治療をしても慢性・進行性に経過して成人期に移行してしまうことが多い疾患（Ⅱ群 若年性関節リウマチなどの膠原病、糖尿病など）、現代医学の粋を集めた治療によっても予後がわるく、成人期までに不幸な転機をとってしまうことが多い疾患（Ⅲ群 白血病などの悪性新生物）の3群に分けて検討するのがよい。また、慢性疾患患児にひき起こされる心理的問題として、慢性疾患そのものの苦痛によってひき起こされる心理反応、その治療経過が長くなることによってひき起こされる心理反応、あるいは治療を継続しているにも拘らずその病状が次第に悪化してくるによってひき起こされる心理反応などのいずれかの心理反応がみられる。その場合の心理反応としては、不安、苛立ち、心気、引きこもり、抑うつ、退行（幼児帰り）、否

認、不服従(non-compliance)などがあげられる。これらの心理反応はしばしば身体的変化を伴い、それが原疾患の治療経過に悪影響を及ぼし、その結果さらに心理反応を増強するという悪循環を形成しやすい。したがって、そのような悪循環を起こさないように、まず慢性疾患による身体的苦痛をできるだけ早く和らげ、二次的に引き起こされる心理反応をできるだけ少なくし、その兆候がみられたときには直に適切な対応をとることが必要になる。

このような慢性疾患患児にみられる心理的問題はその家族にも同じようにみられる場合が多い。

したがって、小児慢性疾患の診療にあたっては患児とその家族に引き起こされる心理的問題をいち早く見つけ出し、早期に適切な対処ができるようなシステムが必要である。

#### 参考文献

- (1) Adams, A. J., Weaver, S. J.: Self-esteem and perceived stress in young adolescents with chronic diseases. *Adolescent Health Care*, 7: 173-177, 1986.
- (2) Drotar, D. and Crawford, P.: Psychological adaptation of siblings of chronically ill children: research and practice implications. *Developmental and Behavioral Pediatrics*, 6: 355-362, 1985.
- (3) Florian U. and Krulik, T.: Loneliness and social support of mothers of chronically ill children. *Soc. Sci. and Med.*, 32: 1291-1296, 1991.
- (4) Holroyd, J. and Guthrie, D.: Family stress

with chronic childhood illness. cystic fibrosis, neuromuscular disease, and renal disease.

*J. clin psychol.* 42: 552-561, 42, 1986.

- (5) Horan, P. F., Guynn, C. and Renzi, D.: Insulin-dependent diabetes mellitus and child abuse. is there a relationship? *Diabetes Care*, 9: 302-307, 1986.

- (6) Larcombe, J., Walker, A. C., Meller, S., Jones, P. M., Mott, M. G.: Impact of childhood cancer on return to normal schooling. *Brit. Med. J.* 301: 169-171, 1990.

- (7) Levigne, U. J. and Faier-Routman, J.: Psychological adjustment to pediatric physical disorders. A Meta analytic review. *J. Pediatr. Psycho.* 17: 133-157, 1992.

- (8) Mascia, A., Frank, S., Berkman, A., Stern, L., Lampl, L., Davis, M., Yeager, T., Birmahr, B and Chisico, E.: Mortality versus improvement in severe chronic asthma. Physiologic and psychologic factors. *Ann. Allergy*, 62: 311-317, 1989.

- (9) Mills, M. S.: Emotional symptoms and physical health in bereaved parents. *Nurs. Res.* 34: 46-81, 1984.

- (10) Nolan, T. and Zvagulis, I.: Controlled trial of social work childhood chronic illness. *Lancet*, 411-415, 1987.

- (11) Patterson, M. J., Leonard, B. J. and Titus, J. C.: Home care for medically fragile children: Impact on family health and well-being. *Developmental and Behavioral Pediatrics*, 13: 248-255, 1992.

(12) Pless, B., and Nolan, T.: Revision, replication and neglect—research on maladjustment in chronic illness, *Child Psychol. and Psychiat.*, 32:347-365, 1991.

(13) Sabbeth, B.F. and Leventhal, J.M.: Marital adjustment to chronic childhood illness: A critique of the literature. *Pediatrics*, 73:762-768, 1984.

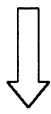
(14) Seligmann, M.: Adaptation of children to a chronically ill or a mentally handicapped sibling. *Canadian Medical Association Journal*, 136:1249-1252, 1987.

(15) Stein, R.E.K. and Jessop D.J.: Does pediatric home care make a difference for children with chronic illness? Findings from the pediatric ambulatory care treatment study. *Pediatrics*, 73:845-853, 1984.

(16) Wallander, J.L. and Uärni, J.W.: Social support and adjustment in chronically ill and handicapped children. *Am. J. Commun. Psychol.*, 17:185-201, 1989.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児慢性疾患の診療にあたってはそれぞれの患児の疾患の重症度、進行度、治療期間などによって患児に生ずる心理的な問題だけではなく、それぞれの患児の両親、とくに母親に生ずる心理的な問題も考慮しなければならない。なぜなら、それらが患児の疾患の経過に無視できない影響を与え、患児のQOLを低下させるからである。今回はそのような疾患の経過に影響を与える心理的な問題として、どのような問題が考えられるかをこれまでの臨床経験に文献調査の結果を加えて検討した。